

千葉県立博物館の事業に係る自己評価票（令和4年度事業）

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100%	4	A
ほぼ達成	目標値≧80%	3	B
やや不十分	目標値≧50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75%	4
ほぼ達成	達成値≧65%	3
やや不十分	達成値≧50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明				数値
I	収蔵資料の整理・保存 有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等	令和4年度実績	1,288点	4	A	年度内新規資料登録点数 目標値は自然史系研究員の数 ×100
					館設定の目標	500点			
			2	資料の情報化・公開実績	令和4年度実績	1,111点	4		情報システム月次報告の年間 データ公開件数（標本登録目 標値を目標値とした）
					館設定の目標	500点			
			3	資料収集の回数	令和4年度実績	107回	4		資料収集に出かけた回数（当 該年度分の聞き取り調査結果 による）、目標値は研究員の 数×5
					館設定の目標	30回			
		調査研究	4	館外貸出（外部機関等展示等）	令和4年度実績	2件	4	A	年報4（1）展示利用と研究利 用
					要望のあった件数	2件			
			5	館内利用（学術調査等）	令和4年度実績	6件	4		年報4（1）館内利用
					要望のあった件数	6件			
			6	著作物資料への利用（出版物掲載等）	令和4年度実績	5件	4		年報「4利用」で報告した数 値のうち、著作物の件数
					要望のあった件数	5件			
7	調査事業件数	件数	令和4年度実績	10件	4	A	総合研究の数+専門研究の数		
			館の計画	10件					
8	共同調査事業件数	件数	令和4年度実績	12件	4		年報の共同研究員の数+共著 論文の数（館内除く）、目標 値は自然史系研究員の数		
			館設定の目標	6件					
9	研究成果の公開状況	論文研究報告	令和4年度実績	10件	4		年報「学術論文・学術書」+ 「学術報告書」、目標値は自 然史系研究員+分館長の数		
			館の計画	6件					
大項目Iの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(項目1-3):博物館資料は博物館活動を行う上で最も基礎的かつ重要であり、その収集とデジタル化、情報公開を積極的に進めている。</li> <li>●(項目4-6):博物館資料は、有効活用の件数を想定して収集・保管されるものではないため、目標を要望のあった件数とし、申し出があった案件にすべて対応した。</li> <li>●(項目7-9):研究成果は学術論文等で公開している。</li> </ul>								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考			
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明	数値						
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和4年度実績	58,531人	4	A	目標は平成23年度数値を参考にした数値		
						館設定の目標	52,000人					
			2	企画展（マリンサイエンスギャラリー「房総の魚 名魚・珍魚・ふつうの魚」）	入館者数	令和4年度実績	6,557人	3			目標は平成27年度～令和3年度の平均値（平成31年及び令和2年度は臨時休館が含まれるため除外）	
						館設定の目標	6,833人					
			3	企画展（収蔵資料展「九十九里浜の海の生きもの」）	入館者数	令和4年度実績	17,852人	4				目標は平成29年度～令和3年度の平均値
						館設定の目標	17,480人					
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	令和4年度実績	52回	4	A	理想郷ホワイトボード(18)、磯ホワイトボード(12)、こんなの見たよ(6)、ユニット季節(4)、ユニット他		
						館設定の目標	50回					
			5	企画展（マリンサイエンスギャラリー「房総の魚 名魚・珍魚・ふつうの魚」）	実施回数	令和4年度実績	1回	4				
						館設定の目標	1回					
			6	企画展（収蔵資料展「九十九里浜の海の生きもの」）	実施回数	令和4年度実績	1回	4				
						館設定の目標	1回					
総合的な満足度	7	常設展示	アンケート満足度「非常に満足」+「満足」の割合	令和4年度実績	100%	4	A	アンケート回答数20（前年度24）				
	8	企画展（マリンサイエンスギャラリー「房総の魚 名魚・珍魚・ふつうの魚」）		令和4年度実績	100%	4		アンケート回答数19（前年度30）				
	9	企画展（収蔵資料展「九十九里浜の海の生きもの」）		令和4年度実績	99%	4		アンケート回答数201（前年度38）				
大項目IIの総合評価（A～D）							A					
博物館コメント		<ul style="list-style-type: none"> <li>●企画展等の入場者数は新型コロナウイルスの蔓延前の状況に回復したと言える。換気や消毒清掃など、来館者が安心して観覧できる対応を継続している。</li> <li>●常設展示、企画展示等の満足度は極めて高いと言える。例えば、企画展示の解説パネルで、担当研究員からの一言コメントを掲示したところ好評であった。</li> <li>●アンケート方法は常設展示・マリンサイエンスギャラリーはオンライン、収蔵資料展はアンケート用紙への記入としたが、アンケート用紙を設置したほうが多くの回答が集まる傾向にあるのでできる限り両者を併用するようにしたい。</li> </ul>										
III	財源の確保	1	入場料収入	達成率	令和4年度実績	117%	4	A	R4実績/R4当初予算			
					前年度実績	145%						
		2	外部資金の獲得	件数	令和4年度実績	4件	4			自然史系研究職員の数×科研費平均採択率（25%）		
					館設定の目標	2件						
大項目IIIの総合評価（A～D）							A					
博物館コメント		<ul style="list-style-type: none"> <li>●（項目1）：無料の65歳以上203%、有料の一般109%と偏りがあるため入場料収入は伸び悩んでいる。</li> <li>●（項目2）：外部資金の獲得件数は科研費を4件（延長含む）獲得し目標値を上回った。直接経費により研究に必要な物品の購入や旅費の支出を行い、間接経費により展示用模型の修復等を行うことで、資料収集の充実と県民サービスの向上に努めた。</li> </ul>										

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和4年度実績	80回	4	R4ウェブ更新履歴ファイルから 情報システムアクセス数集計ファイルから 年報の「記者発表」「行事情報の発信」「メディア掲載」の合計
						前年度実績	59回		
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和4年度実績	63,754件	4	
						前年度実績	59,502件		
			3	報道機関への情報発信	取材件数	令和4年度実績	119件	3	
						前年度実績	134件		
大項目IVの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	<p>●（全項目）：HPによる情報発信やHPアクセス数は、増加した。新型コロナウイルス感染症対策により行事を制限して実施したことなど、また昨年度に比べて研究成果の公表事例が少なかったことにより、報道機関への情報発信数は伸びなかった。情報発信の改善として、近隣自治体や民間団体への広報活動を推進したい。</p>								
V	学校及び地域（関係団体）との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和4年度実績	11校	4	野外実習授業の実績
						要望があった数	11校		
			2	入館者数	入館者数	令和4年度実績	585人	4	
						要望があった数	585人		
			3	生徒・児童	入館者数	令和4年度実績	527人	4	
		要望があった数				527人			
		4	博学連携（幼小中高への出前講座等）	学校数	令和4年度実績	7校	4		
					要望があった数	7校			
		5		利用者数	令和4年度実績	327人	4		
					要望があった数	327人			
地域関係団体との連携	6	団体数	令和4年度実績	7団体	4	団体フィールドトリップ及び講師派遣事業の実績			
			要望があった数	7団体					
	7	連携・共催（大学、NPO等）	利用回数	令和4年度実績	7回		4		
				要望があった数	7回				
	8		利用者数	令和4年度実績	195人		4		
要望があった数				195人					
9	友の会活動	利用人数	令和4年度実績			該当なし			
10	ボランティア活動	活動延人数	令和4年度実績	47人	2				
			前年度実績	71人					
大項目Vの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	<p>●（項目1-8）：新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、学校・団体等との連携活動は人数等の制限を設けて実施し、要望のあったものは基本的に全て受け入れた。実施した内容については、前年度までコロナによる中止が続いていたためもあり、海の生きものに触れる体験等ができたこと大変好評であった。次年度はコロナ制限を大幅緩和し、例年に近い形での実施を目指す。</p> <p>●（項目10）：ボランティア活動は制限を設けて実施した。ボランティア登録者の都合により活動を行った登録者が少なかったため、活動延べ人数は前年度を下回った。今後は、新規ボランティア登録者の募集を行うとともに、要望のある観察会等の補助活動への参加等を積極的に促したい。</p>								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考		
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明	数値					
VI	教育・普及活動	来館状況	1	観察会（「海の生きもの観察ツアー」を含む）	参加者数	令和4年度実績	299人	4	B	申込者数445名、当選者数299名（当日欠席者数83名）	
						募集員数	270人				
			2	講座	参加者数	令和4年度実績	12人	2		申込者数13名、当選者数12名（当日欠席者数3名）	
						募集員数	16人				
			3	フィールドトリップ	参加者数	令和4年度実績				計画せず	
						募集員数					
		4	バックヤードツアー	参加者数	令和4年度実績			計画せず			
					募集員数						
		5	みんなで工作 海の生きもの	参加者数	令和4年度実績	77人	3	申込者数77名、当選者数77名、当日欠席者数18名			
					募集員数	96人					
		6	海の体験コーナー	参加者数	令和4年度実績			計画せず			
					募集員数						
総合的な満足度			観察会（「海の生きもの観察ツアー」を含む）	満足度「とても満足した」+「満足した」の割合	令和4年度実績	100%	4	A			
					講座	令和4年度実績	100%			4	
					フィールドトリップ	令和4年度実績					計画せず
					バックヤードツアー	令和4年度実績					計画せず
					みんなで工作 海の生きもの	令和4年度実績	100%			4	
利用状況			相談件数（来館、メール、電話等）	利用件数	令和4年度実績	70件	4	A			
					要望数	70件					
大項目VIの総合評価（A～D）							A				
博物館コメント		<p>●（全項目）：教育・普及活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、昨年度同様、行事の種類と数を制限し、また全て事前申込制として実施した。昨年度に比べて申込者数は大幅に増加したが、コロナ感染が疑われる症状が出たことによる当日の参加辞退者が多く、実際の参加者数は定員をかなり下回ることが多かった。参加者からは、久しぶりの行事参加で海の生きものに触れる体験等が楽しかったこと、また内容やレベル等についても概ね適切だったとの評価があり、満足度は高かった。次年度はコロナ前と同様の行事を実施し、参加者の増加を目指す。一般からの相談については、全て対応した。</p>									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明				数値	
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	令和4年度実績	/	/	A	該当なし	
					館設定の目標					
			2	教員等の研修	令和4年度実績	30人	4		総合教育センター海の環境学習研修会他3件	
					要望があった数	30人				
			3	職場体験	令和4年度実績	9人	4		いすみ市立岬中学校、大多喜町立大多喜中学校	
					要望があった数	9人				
			4	インターンシップ	令和4年度実績	5人	4		千葉大学、東洋大学、千葉県立大多喜高等学校、千葉県立大原高等学校	
					募集員数	5人				
		安全管理	5	研修会の開催	実施回数	1回	4	A	防災設備研修	
					館の計画	1回				
			6	防災訓練実施等	実施回数	3回	4		情報伝達訓練2回 防災訓練	
					館の計画	3回				
大項目VIIの総合評価（A～D）						A				
博物館コメント	●（項目1-4）：新型コロナウイルス感染症対策により、参加人数等を制限しながら実施し、要望のあったものは全て受け入れた。インターンシップも募集した5名の応募があった。参加人数は制限されたものもあったが、ほぼコロナ前に近い数を実施できた。実施した内容についても、海の生きものやその観察方法に関する知識が得られ、博物館業務に関する貴重な体験ができたこと好評であった。									
VIII	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	令和4年度実績	2団体	4	A	4年度、3年度ともコロナ禍という状況であり団体入込は厳しい。	
					前年度実績	2団体				
			2	外国人来館入込	令和4年度実績	282人	4		4年度においては、3年度と比較すると外国人入込数は増加した。	
					前年度実績	113人				
大項目VIIIの総合評価（A～D）						A				
博物館コメント	●まだまだコロナ禍ということもあり、団体入館者、外国人入館者数は非常に厳しい状況である。									
IX	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	制作数	令和4年度実績	1件	4	A	「房総の海の生きもの図鑑」（ダイバーによる水中写真データベース）の新設
					館設定の目標	1件				
			2	デジタルミュージアム等のコンテンツの利用状況	視聴数	令和4年度実績	63,754件	4		サイト内項目別のアクセス数のカウントデータがないため、全体のアクセス数を記入した。
					前年度実績	59,502件				
			3	インターネットを活用したオンラインでの講座等の開催	開催回数	令和4年度実績	/	/		計画なし、連携行事での希望もなし
					館設定の目標	/				
			4	デジタル・デバイス解消のための対策	実施回数	令和4年度実績	2件	4		普及行事の申込方法、行事アンケート回答方法の多様化
					館設定の目標	2件				
大項目IXの総合評価（A～D）						A				
博物館コメント	●（項目1-2）：地元ダイビング協会と協定を結んでおり、ダイバーと連携した生きものコンテンツを新設した。 ●（項目3）：行事は全て対面で実施したためオンラインでの講座等は計画しなかった。また、学校や団体からのオンライン講座の要望もなかった。									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明				数値
X	その他	コロナウイルス感染症対策	1	館内消毒の実施等感染対策実施	令和4年度実績	5項目実施	4	A	実施項目：①展示室・展示物定期消毒3回以上/日、②来館者手指消毒（通用口含む）、③来館者検温（通用口含む）、④展示室対応職員の感染予防（マスク・フェイスシールド着用、消毒）、⑤館内の適切な換気
					館設定の目標	5項目実施			
大項目Xの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	●来館者の入館確認票の記載と入館者数制限は撤廃したが、消毒や換気については確実に実施した。								
総合評価（A～D） [各達成度の平均]							A		
総合評価と次年度への対策	<p>●総合評価：令和4年度もコロナ禍が続いており、館内・館外での感染症予防対策のため、マスクの着用や消毒、教育普及行事の人数制限など博物館活動において平常時とは異なる対応が引き続き求められたが、コロナ前に実施してきた「観察会」や「みんなで工作 海の生きもの」等、いくつかの普及行事を、コロナ対策をした上で復活させた。一方、コロナ対策は3年目となり、職員がその対応に慣れてきたこと、コロナ対策に必要な物品が入りやすくなったこと、ほとんどの来館者にはコロナ対策による不便をご理解いただけたことなどから、前年度と比較して博物館活動は拡大しており、入館者数や学校利用者数は前年度と比較して大幅に増加した。</p> <p>●次年度への対策：令和5年度の博物館活動は、ほぼコロナ禍前の水準に戻り、調査研究、資料収集、展示、教育普及活動を展開しており、これらの活動を高水準で維持していく必要がある。まず、コロナ対策による制限はほぼ解除されているが、今後の動向により柔軟な対策がとれるよう、必要な物品等をすぐ使えるよう準備しておくことが挙げられる。調査研究、資料収集活動では、移動の制限や滞在先での制限がほぼ解除されたことから、コロナ禍で減少していた県外でのフィールド調査や資料収集を積極的に行っていくことが挙げられる。展示・教育普及活動では、コロナ禍前の水準まで戻ってきた入場者数、利用者数を維持するだけでなく、より魅力的な場を提供していく必要がある。このためには、広報戦略の見直しや、過去のアンケートに基づく企画展示の工夫などを行うことが考えられる。</p>								